



創造都市政策セミナー in 京都

文化財の保護と活用のモデルを目指して 「世界遺産・二条城」

平成29年8月25日

京都市文化担当局長 北村 信幸

二条城の歴史



1603（慶長8）年	徳川初代将軍家康が京都御所の守護と将軍上洛の際の宿泊所として造営
1626（寛永3）年	三代将軍家光が、後水尾天皇の行幸に合わせて改修し、ほぼ現在の姿となる
1750（寛延3）年	雷火により、五層の天守焼失
1788（天明8）年	市中の大火により、本丸御殿焼失
1867（慶応3）年	10月二の丸御殿大広間にて、15代将軍慶喜が大政奉還の意思表示、二条城は朝廷のものとなる
1884（明治17）年	7月 二条離宮となる
1893（明治26）年	京都御所の旧桂宮御殿を移築、本丸御殿とする
1915（大正4）年	大正天皇の即位の大典が行われ、そのために大饗宴場（現在の清流園の位置）や南門を造営
1939（昭和14）年	二条離宮は宮内庁から京都市へ下賜される
1940（昭和15）年	恩賜元離宮二条城として一般公開をはじめ
1965（昭和40）年	清流園造成 角倉家の屋敷跡から和楽庵、香雲亭を移築
1994（平成6）年	ユネスコ 世界遺産に登録される
2005（平成17）年	築城400年記念 展示・収蔵館 開館
2011（平成23）年	二条城本格修理事業に着手
2013（平成25）年	唐門、築地の修理が完成
2014（平成26）年	東側空間整備事業に着手
2017（平成29）年	東大手門の修理が完成

京都を代表する文化観光スポット



清水寺や金閣寺，伏見稻荷大社，嵐山などと並ぶ京都を代表する文化観光スポット

【平成28年度入城者数：190万4千人】

国別 日本49.8%，中国19.8，韓国7.1，台湾3.1
豪4.5，米2.3，仏0.9，西0.7，英0.5，伊0.5

* 全国の城郭の入場者数(平成28年度)

- ①大阪城 2,557千人
- ②姫路城 2,112千人
- ③名古屋城 1,919千人
- ④二条城 1,904千人
- ⑤首里城 1,886千人

(全国城郭管理者協議会調べ)



二ノ丸御殿(国宝)



●史跡：旧二条離宮（二条城） 昭和14年(1939)指定

二条城の敷地すべてが史跡に指定

●国宝（建造物） 計6棟

昭和27年(1952)指定

二之丸御殿

遠侍，式台，大広間，蘇鉄之間，黒書院，白書院



二之丸御殿

●重要文化財（建造物） 計22棟 昭和27年(1952)指定

本丸御殿

櫓門，御殿玄関，

御殿御常御殿，

御殿御書院，

台所・雁之間

二之丸御殿 唐門，台所

東大手門，北大手門，東南隅櫓ほか



唐門



東大手門



●重要文化財(美術工芸品)

計1016面

二之丸御殿障壁画

その他, 約2800面の障壁画(杉戸絵, 天井画含む)は, 建造物の一部として国宝や重要文化財に指定されている。



松鷹図

●特別名勝 二之丸庭園



後水尾天皇行幸御殿からの眺め(公家風)



大広間からの眺め(武家風)

平成23年度からおよそ20年の歳月をかけ， 28棟の文化財建造物を中心に城内の歴史的建造物の修理や整備を行っている。



修理期間：唐門（平成23年12月～平成25年8月）
東大手門（平成26年10月～平成29年3月）
今後，本丸御殿，二の丸御殿等を順次，修理



○本格修理事業は、築城以来の大修理であり、
約100億円を超える財源が必要

(参考)本格修理事業を除いた収支(平成28年度)

収入(入城料, MICE使用料等) : 約11億円

支出(運営経費等) : 約11億円

○財源の確保と文化財保存の意義を広く知っていただく
ため、「世界遺産・二条城一口城主募金」
に取り組んでいる。

募金開始: 平成22年10月から

寄付実績: 累計4億円(平成29年6月末累計) ※目標50億円

日本全国及び海外から、世界遺産・二条城において挙式を行うカップルを募集



平成21年度事業開始，年間約50件の挙式を実施
→ 使用料金を本格修理工財源として積立て

世界遺産・二条城MICEプラン



二条城の格式や歴史的価値を最大限に活用し、MICE会場として使用

→ 使用料金を本格修理の財源として積立て(平成26年度～)

(平成26年度 9件 3,600万円, 平成27年度 14件 2,700万円)

※MICE: Meeting, Incentive Travel, Convention, Exhibition/Event



アートアクアリウム城
(2015年10-12月)



小澤征爾音楽塾(2015年9月)



京の伝統と食のイベント
(2017年5月)



明日の日本を支える観光ビジョン

(首相官邸, 平成28年3月)

「文化財」を, 「保存優先」から観光客目線での「理解促進」, そして活用へ



文化財活用・理解促進プログラム2020

(文化庁, 平成28年4月)

- * 文化財を中心とする観光拠点の整備
- * 投資リターンを見据えた文化財修理・整備の拡充と美装化
- * 分かりやすい解説と多言語対応
- * 歴史的建造物の活用促進
- * 文化財をユニークベニューとした文化イベント

保護と活用の新たなモデルを目指して

大

平成28年5月

○デービッド・アトキンソン氏を「二条城特別顧問」に

○「二条城の価値を活かし未来を創造する会」発足

京都市長に提言（平成28年9月）

⇒ 「歴史や文化財を分かりやすく説明する機能の強化」
や「ユニークベニュー（特別な会場）として魅力的で
多彩なメニューの構築」など41項目の提言

平成28年度実施済み事業（例）

・ 城内案内看板の一新

⇒ 日本語解説の充実，外国語への対応を図るとともに，二条城の雰囲気
に合致したデザインに変更

・ 多言語パンフレットの一新

前：「英・中・韓」一括版（A3の6つ折版）1種類のみ

後：「英語」，「中国語（繁）」，「中国語（簡）」，「韓国語」，「フランス語」，
「スペイン語」の6言語（それぞれA5版8ページ）に見直し





- 平成28年10月，2020年東京オリンピック・パラリンピックのキックオフイベントが東京と京都で開催
- 二条城でのイベントで，初めて国宝・二之丸御殿内を活用



(参加者)
外国人VIP，政府要人，
一般市民等1，600名



四代・池坊専好氏による立花(黒書院)



二の丸庭園を背景に能を実演(大広間)



雅楽の実演(遠侍)



蹴鞠の実技(車寄)



二条城の活用によるメリット

- 文化財の価値共有
- 特別な空間におけるアート
- 文化や歴史に興味のない層の来城
- ☆ 本格修理の財源確保
- ☆ 観光や産業などへの経済波及効果

アートアクアリウム城

入城者収入, 物販・飲料収入, 事業費トータルで8億円

* このうち30,000千円が二条城の財源に

アジア回廊現代美術展

入城者収入, 事業費トータルで1.2億円

* このうち12,000千円が二条城の財源に



二条城の魅力を伝える新たな取組



○ 平成29年度事業

1 早朝観光の充実 (7月・8月)

香雲亭での朝食提供など早朝観光の取組を実施

2 未公開文化財整備活用事業

未公開の文化財の活用を通じて文化財への一層の理解の促進と観光資源としての魅力の向上を図る。

3 東大手門特別公開事業 (実施中)

平成29年3月に本格修理事業が完了した重要文化財・東大手門を特別公開

4 外堀景観向上事業

二条城外周が東側空間整備事業により、市民の憩いの場となるとともに、石垣等の文化財に親しめる空間になることから、外堀全体の景観を向上させる取組を行うとともに、石垣の基礎調査等を行う。